

PRESS RELEASE

2016年9月15日
株式会社三菱総合研究所

日銀短観（2016年9月調査）予測

株式会社三菱総合研究所（代表取締役社長 大森京太 東京都千代田区永田町二丁目10番3号）では、10月3日（月）に日本銀行より発表される予定の「企業短期経済観測調査（日銀短観）2016年9月調査」の業況判断DIについて予測を行った。

大企業・全産業の業況判断DI	————	+ 13%ポイント（6月調査比 +1%ポイント）
同・製造業の業況判断DI	————	+ 7%ポイント（6月調査比 +1%ポイント）
同・非製造業の業況判断DI	————	+ 19%ポイント（6月調査比 変化なし）

業況判断DI（大企業・全産業）は、+13%ポイント（前回6月調査から1%p上昇）と、5期ぶりの業況改善を予想する。海外需要の持ち直しを背景に、製造業を中心に業況改善を見込む。

製造業の業況判断DI（大企業）は、+7%ポイント（前回調査から1%p上昇）と予測する。素材業種では、新興国向け輸出がやや持ち直し、業況改善を予想。加工業種では、円高や新興国向け輸出の低迷は続くが、米国向けの自動車輸出の増加などを主因に小幅の業況改善を見込む。

非製造業の業況判断DI（大企業）は、+19%ポイント（前回調査から変化なし）と予測する。都心のマンション販売不振により不動産業の業況悪化を見込む一方、卸売業や運輸業は、製造業の生産活動の持ち直しにより業況が改善するとみられる。小売業や宿泊・飲食サービス業では業況は横ばいを予想する。

先行きの業況判断DI（大企業）は、製造業は+8%ポイント、非製造業は+20%ポイントと、それぞれ小幅の改善を予測する。製造業では、資源価格の動向、円高など懸念材料はあるものの、海外経済の緩やかな持ち直しを背景に、業況の改善は続くとみる。非製造業では、雇用・所得環境の改善を背景とする消費の緩やかな持ち直しや、大型経済対策への期待が業況の下支えとなろう。

日銀短観（2016年9月調査）業況判断DI 予測結果

「良い」-「悪い」 単位：%ポイント		実績		予測	
		2016年 3月	2016年 6月	2016年 9月	2016年 12月
		3月調査 「最近」	6月調査 「最近」	9月調査 「最近」	9月調査 「先行き」
大企業	全産業	13	12	13	14
	製造業	6	6	7	8
	非製造業	22	19	19	20
中堅企業	全産業	12	9	9	10
	製造業	5	1	1	2
	非製造業	17	14	14	15
中小企業	全産業	1	▲1	▲1	0
	製造業	▲4	▲5	▲5	▲4
	非製造業	4	0	0	1

注1：シャドー部分が2016年9月調査の予測値。

注2：「先行き」は、調査時点から3か月後を表す。

資料：実績は日本銀行「企業短期経済観測調査」、予測は三菱総合研究所。

《本件に関するお問合せ先》

株式会社 三菱総合研究所 〒100-8141 東京都千代田区永田町二丁目10番3号

政策・経済研究センター 米良有加 田中康就

電話：03-6705-6087 FAX：03-5157-2161 E-mail：yuka_mera@mri.co.jp

広報部 上岡・瀬戸口 電話：03-6705-6000 FAX：03-5157-2169 E-mail：media@mri.co.jp

尚、本資料は、内閣府記者クラブ、金融記者クラブに配布致します。